

「あいさつと歌声のあふれる学校」に

本校は、明治6年(1873年)から続く歴史ある小学校で、令和5年には150周年を迎え、地域の皆様と共に記念行事を行いました。現在の校舎は、平成14年(2002年)に学舎移転により新設され、木の香る温かい木造建築が大きな話題になりました。

本市では、令和5年度より学校運営の柱としてコミュニティスクールを導入しており、本校も学校運営協議会委員の皆様と共に学校運営を進めております。

今年度の学校目標は「自ら学び みんなで高まる 児童の育成」―その土台づくり、風土の醸成として「あいさつと歌声のあふれる学校」を児童と教職員共通のキャッチフレーズにしています。

昨日行われた入学式では、66名の新生が入学し、全校児童492名、教職員55名で新たなスタートをきりました。

入学式後、初めての登校となる今日は、朝から大雨でした。新1年生も傘をさしながら、大きなランドセルに大きな手さげ袋を持って登校してきました。児童玄関前で不安そうにたたずんでいる1年生に、6年生が「おいで、靴箱教えてあげるよ」と声をかけいっしょに行ってくれていました。6年間の成長というのは本当に大きく大切なものだと感じた場面でした。

正門の外では、数名の保護者の方が、我が子が校舎に入っていく姿をそっと見守られていました。「一人で大丈夫かな」「泣いたりしないかな」という心配な気持ちを持ちながら、そっと応援してくださる姿に胸が熱くなりました。

子どもたちの笑顔を守り、心と体の健やかな成長を願うとき、その基盤として欠かすことができないのは、学校が安心して生活できる場所であることだと思います。「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」の言葉がいつも身近にあり、子どもたちも教職員も、子どもたちを支えてくださる地域の方々も、いっしょになって、伸び伸びと語り合い笑い合う、そんな姿が実現できたらすてきだと思います。

地域の皆様、保護者の皆様とたくさん顔を合わせ、相談させていただきながら教育活動を進めていく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

令和8年4月10日



廿日市市立平良小学校
校長 池田 賀子